

クロノス

「クロノスフォーラム2022」を開催

建設業への営業強化などを促進

クロノスは5月12日、パートナー向けのイベント「クロノスフォーラム2022」を明治記念館（東京・港区）で開催した。「コロナ前後における勤怠管理の変化と2024年4月を見据えた建設業・運送業への対応」をテーマに、事業戦略や新製品を紹介した。

大牧充社長のセッションでは勤怠管理市場を解説。市場全体で

SaaSが大きく伸長しており、同社の勤怠管理システム「クロノス Performance」も、20年度第4四半期以降は、新規ライセンス契約においてクラウド版がパッケージ版を上回っているとした。

建設業では24年4月に時間外上限規制が適用されることから、勤怠管理システムの利用拡大を見込む。大牧社長は、建設業界は若年

層が少なく担い手が不足していることが課題だと指摘し「日常業務のシステム化で風通しの良い職場を作り、担い手の確保

に動きだすことが重要だ」と語った。建設業へのアプローチを強化するため、申請・承認クラウドサービス「X'sion（クロッシオン）」に工数管理機能を追加したと説明。建設業界向けに提供されている原価管理ソフトなど、他社サービスとの連携に注力していく方針も示した。

22年11月にタイムレコーダーの



大牧 充
社長

新製品として「テレタイムα」をリリースすると発表した。CPUの性能を強化したことで操作感やレスポンスが向上するという。

5月からAPI連携サービス「XronosLink（クロノスリンク）」の提供を開始したことを示し、外部連携を通じて新規顧客獲得やこれまでアプローチできていなかった業種への展開を目指すとした。

同社は4月1日に新コーポレートメッセージ「働くところに、クロノスがある」を発表しており、大牧社長は、認知を高めるため、マーケティング活動に力を入ると紹介した。

岩田晃久